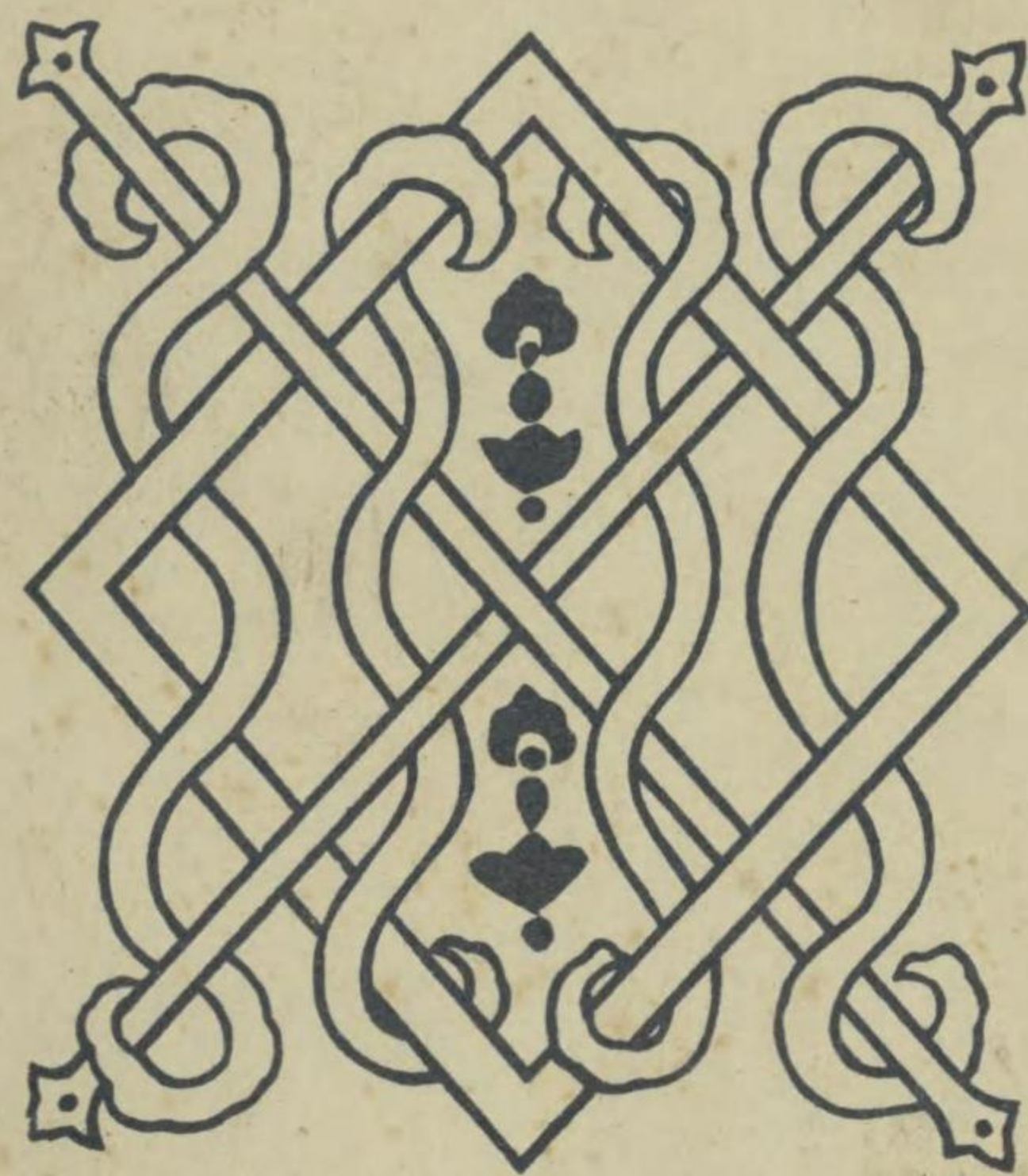


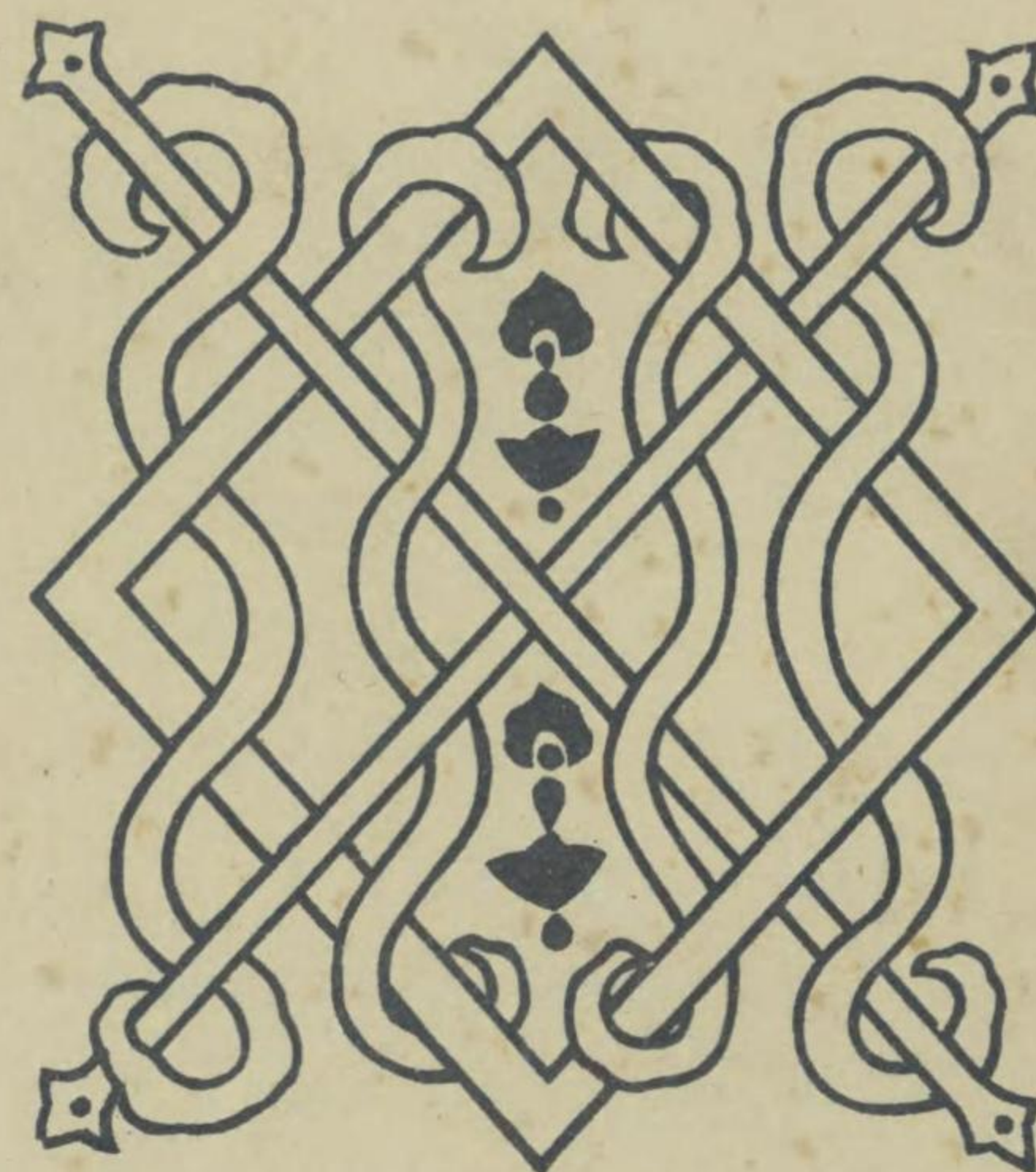
Collection of Songs for  
Primary Schools and Homes.

# 童謠唱歌名曲全集

田村虎藏・福井直秋・小松耕輔・共編



第四卷



東京文社刊行

EDITION · KYOBUNSHA · TOKYO



120.

愛らしの雛鳥

犬童球溪 歌曲  
ケルン

おたやかに 【♩=72】

1. カ - キ ネ ノ ホ - ト リ ニ ニ  
2. あ - し た も ゆ - ふ べ も お

ハ ノ ウ チ ニ ト モ ヨ ビ カ  
や の も と に よ ろ こ ひ あ

ハ セ ル コ エ フ キ ケ ハ タ  
つ ま る さ ま を み れ ば じ



犬童球溪 歌曲  
ケルン

*mf*

ニニ  
もお

*mf*

7

ヨビカ  
こひあ

*f*

タ  
じ

*f*

7

がヒニシ タ シム コ コーロ ミ エ  
あいに な づ ける こ こーろ し れ

*cres - - - cen - - - do*

テ ア イ ラ シ ア イ ラ シ コ  
て あ い ら し あ い ら し こ

*cres - - - cen - - - do*

*mp*

レノヒヨ コ コレノヒヨ コ  
れのひよこ これのひよこ

*mp*

7



五 しかたなくなく 穴へと逃げる  
チヨツキン〜 チヨツキンナ。

一〇六 今日も暮れぬ

屋上八 耶歌  
スボンテイニ 耶歌

一 雲の色 うすれて  
山の端は 消えゆき

二 霞むみ空 光る風  
心のどか 春の旅  
月を踏みて 宿を出で  
花を趁ひて 里に入る  
見るも聞くも 新らしや  
知識汎く 需むべし  
かくて「我が宿り 定めなん

一 父上居ます 樂しき我家  
母上居ます 樂しき我家  
慈愛の光 春日のごとく  
照して常に 我等を育つ。  
二 兄上います 樂しき我家  
姉上います 樂しき我家  
百千の情 露より滋く  
注ぎて長く 我等を恵む。

一四 吉田松陰  
土井林 吉歌  
小山作之助 曲  
一 四海の鼎と 沸き立つなかに  
尊王攘夷の 雄叫びたかく  
靈華を點ぜし 不朽の功  
霹靂碎けし 跡こそしのべ。

二 家國を許し、五尺のむくろ  
死生にかへざる 心の操  
誠に動かぬ 何かはあると  
奮ひし雄々しの 跡こそ偲べ  
嗚呼松陰 永き其の名や。

一一五 新緑

植松 安歌  
中田 章 編曲

一 名もなき小草 萌えたつ野邊に  
川水光り 日はうら〜  
遠方山も 色濃く見えて  
つゞける林の 緑深し。  
二 色なき花の 木かげに立てば  
暮れゆく夕べ 風は静か  
緑の木ずゑ くるくも見えて  
星かげかすかに 春は老いぬ。

一一六 忘れな草

川路柳 虹歌  
獨逸民 謡曲

一 空色の忘れな草  
ゆかし野べにさく  
忽忘れそわが友の名  
逝きにし友の名。  
二 水いろの澄まし眼  
星に似る瞳  
それもいま果き夢  
ちりにし花びら。  
三 紫の忘れな草  
かの友のみ靈よ  
五月野に微笑みて咲く  
勿忘れそ友の名。

一一七 牧歌

工藤富次 耶歌並曲  
黄金の珠玉 散り  
自然のむしろに  
恵のみひかり 輝きわたりぬ

森には囀る 百千の小鳥  
谷には奏づる 泉のしらべ。  
喜び悲しび 相互にわけて  
日毎になれにし 牧場のほとり  
名もなき小草の 健氣の姿  
いとしと語りし 春日もありしな。  
心も晴れゆく み空の彼方ゆ  
静風招くを いそがずや子牛よ。

一一八 燕

大和田建樹 風曲  
獨逸國 風曲

一 羽根休ませ 鳴くつばめ  
忘れぬ古巢に 馴れたる軒端に  
嬉しや ふたゝび来て。  
二 また飛び立ち 行くつばめ  
野山に遊びて 川邊に遊びて  
飽きなば 疾く〜來よ。

一一九 静かなる夏の夜

小林愛 雄歌  
弘田龍太郎 曲

一 しづかなる 夏の夜の  
更けてゆく 海のきし  
白き波は すゝり泣きて  
夜もすがら 岩にすがら。  
二 なつかしき 思ひ出に  
たゞひとり 砂の上  
紅き薔薇を 胸にいだき  
夜もすがら 空になげく。

一二〇 愛らしの雛鳥

犬童球 溪歌  
ケル ン 曲

一 垣根のほとりに 庭の中に  
友よびかはせる 聲をきけば  
互に親しむ 心みえて  
愛らし愛らし これのひよこ  
これのひよこ。

一二一 水鳥

佐々木信綱 鳥  
ハートツゲン 曲

一 水際の若蘆 緑に萌えて  
春風のどけき 入江の水に  
水をば潜りつ み空に舞ひつ  
遊ぶや水鳥 友どち群れて。  
二 雪霜凌ぎつ 氷を忍び  
わが世の春をば 待ち得し彼ら  
水をば潜りつ み空に舞ひつ  
遊ぶよ翼に 春日を受けて。

一二二 佛陀

川路柳 虹歌  
弘田龍太郎 曲

一 雪しろし ヒマラヤ  
水清し ガンヂス  
かの佛陀 生れし  
うるはしの 印度よ。  
二 迦毘羅城 あとなく  
祇園精舎 あらねど  
その教へ 東に  
汎ねくも つたはる。  
三 雪山の 苦行も  
菩提樹下の なやみも  
悟りごころ 晴るれば  
香華ふる 天より。

一二三 舞姫

大和田建樹 風曲  
露國民 謡曲

一 かさす花に 春風通ひ  
かへす袖に 白雲なびき

更け行く夜半に 心も澄みて  
笛の音も琴の音も 神代に似たり  
これや 天つ少女の姿。  
二 風に訝えぬ 御庭の松に  
霜は満ちぬ 御階の上に  
冬の夜寒く 更くるも知らず  
君が代の久しきを 奏で祝ふ  
雲の上の 舞姫あはれ。

一二四 踊る少女

野口雨 水情歌  
藤井清 水情歌

花になりたや 水藻の花に  
少女姿は 水藻の花か  
踊れ楽しく この世の中を  
踊る少女の 姿が可愛や  
花は水藻で ラットラットラ  
この世楽しく 踊れや少女。

一二五 螢

千野貞 一 靈歌  
岡野貞 一 曲

一 螢 暮れかゝる野澤のほとり  
蓮の花に 群れてははなれ  
光りみだるゝ おもしろや。  
二 螢 暮れそむる小川の流れ  
玉藻の花に 落ちてはすがり  
光りうつろふ おもしろや。

一二六 星のひかり

傳田治 朗歌  
原田比古士 真曲

一 蟲の音さへも はや老いゆき  
露のみしげし 秋の夜半  
仰げば 空に咲き満ちて  
またゝきははし 笑みかはす  
星の光りぞ キラ キラ  
星の光りぞ キラ キラ。  
二 静けき秋の 夜も更け行き



昭和七年一月廿一日印刷  
昭和七年一月廿七日發行

◇豫約出版◇ 童謠唱歌名曲全集

第四卷・豫約價 金貳圓八拾錢



編纂者 田村虎藏  
東京市牛込區築土八幡町三一

編纂者 福井直秋  
東京市外長崎町荒井一八八四

編纂者 小松耕輔  
東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五

發行者 鈴木 芄  
東京市神田區淡路町二ノ二

印刷者 單式印刷株式會社  
東京市芝區金杉新濱町一二

代表者 和田助一

發行所

東京市神田區淡路町二ノ二  
振替口座 東京八三二六番

京文社

電話神田(25) 三三九〇番  
三三九二番